

< 自己評価1回目 > ※黄色のセルをすべて記入してください。

項番	1	総事業 項目数	1
----	---	------------	---

整理番号	2025M-	069	補助事業者名	社会福祉法人登別千寿会	事業項目名	特殊浴槽の整備
------	--------	-----	--------	-------------	-------	---------

別紙 JKA補助事業 2025年度 事前計画／自己評価書(4／5)

5. 補助事業の自己評価

作成日	2025	年	10	月	23	日	作成者	小林 覚
-----	------	---	----	---	----	---	-----	------

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画／自己評価書(3／5①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。					採点
(1) 受益者 (ニーズ)	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				
(2) 事業内容	寝たきりや座位の保持が困難な施設入所者の方が安心・安全な入浴をできるよう特殊浴槽装置の更新を行った。以前の装置より安全機能が良くなり、入所者の望むお湯の温度に設定できるようになったり、高温でヤケドになるリスクが軽減できるようになったり、ストレッチャー・担架の部品が洗えるようになり、衛生面でも良くなった。また、ストレッチャーが軽くなったことにより、移動が楽になり、職員の身体的な負担軽減に繋がった。 品目:株式会社アマノ マリンコート 特殊浴槽一式				
	事業の新規性または継続の必要性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点
	事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点
	実施計画・体制	申請と見積り合わせは順調に進行し、特殊浴槽装置の発注から納品、検収及びメーカーによる取り扱い説明は2025年9月12日に完了し、その後当日参加できなかった介護職員に対してもメーカーの取り扱い説明をタブレットで動画撮影し、確認できるようにした。			3
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] 2025年9月12日	[達成状況] 110%	[具体的内容] 当初、特殊浴槽の納品が2025年11月、導入予定を2025年12月としていたが、特殊浴槽の発注がスムーズにいったことにより、納品・検収が2025年9月12日となったことで、早期の更新が可能となった	4
	事業の成果・波及	[達成値] 1か月の利用回数	[達成状況] 100%	[具体的内容] 特殊浴槽を利用する利用者が、2025年10月20日現在で30名おり、週2回の入浴で、2025年9月12日から10月20日までの利用回数が242回であった。(1日平均6. 2回、1週平均43. 4回)	4
(4) 情報発信	事業の実施結果	[達成値] 1. 入所者の家族等へ毎月送付している家族通信に、補助事業の記事と写真を掲載する。 2. 施設のfacebookページへの補助事業の記事と写真を掲載し、情報発信を行う	[達成状況] 1. 70% 2. 100%	[具体的内容] 1. 入所者の家族や法人役員、関係団体へ家族通信を124部送付した。また、家族通信を施設のホームページに掲載した。 2. 10月8日に、施設のfacebookページに記事と写真を掲載した。(2025年10月20日現在、203フォローアー)	3
	競輪・オートレース補助金による事業であること	[達成値] 1. 入所者の家族等へ毎月送付している家族通信に、補助事業の記事と写真を掲載する。 2. 施設のfacebookページへの補助事業の記事と写真を掲載し、情報発信を行う	[達成状況] 1. 70% 2. 100%	[具体的内容] 1. 入所者の家族や法人役員、関係団体へ家族通信を124部送付した。また、家族通信を施設のホームページに掲載した。 2. 10月8日に、施設のfacebookページに記事と写真を掲載した。(2025年10月20日現在、203フォローアー)	3
(5) 自己評価の体制	10月21日に担当職員が集まり、自己評価を行った。評価結果について法人ホームページに公開した				3

(b) 総合評価

総合 評価点	4
-----------	---

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。	
(1) 事前計画 (2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	以前使用していた特殊浴槽は、整備後18年経過し、故障も多く、修理のために使用できない期間も多々あったため、入替を行ったことで、入所者及び職員にとって、安心・安全・快適に特殊浴槽を使用することができるようになった。 入浴時間が液晶画面に表示されたり、温度調整が細かくできたりすることで、快適な入浴を提供できるようになった。また、ストレッチャーの部品が外せて洗えることで衛生面でも良くなった。 ストレッチャーが軽くなったことで、移動が楽になり、職員の負担軽減に繋がった。また、入浴介助時の姿勢も楽になり、腰の負担軽減に繋がった。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	優れている点は、予定よりも早く納品・検収ができ、早期に使用開始できたことです。また、ストレッチャーが軽くなったこと、入浴介助時の施設が楽になったことで、介護職員の負担軽減に繋がったことです。 課題としては、利用者からの評価や感想を十分にフィードバックできていない点です。今後は利用者の声を反映して、より良い入浴サービスを提供していけるように行っていきたい。
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点	終の棲家である特別介護老人ホームにとって、可能な限り施設で快適な生活を送ることができるようサービスを提供することは大切で、そのうえで、寝たきりの方や座位の保持が困難な利用者が快適に入浴することができる特殊入浴装置を整備できたことは施設運営で大きな成果となった。また、新しく特殊浴槽を整備したことを家族や関係者などに広報できたことで、施設の魅力の向上をアピールできた。

【福祉機器・医療機器】

整理番号	2025M-	069	補助事業者名	社会福祉法人登別千寿会	事業項目名	特殊浴槽の整備
------	--------	-----	--------	-------------	-------	---------

別紙 JKA補助事業 2025年度 事前計画／自己評価書(5／5)

(c) 事業の促進・阻害要因の自己分析

● 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)～(15)の「促進」または「阻害」欄に「＊」を記し、要因の内容を a 欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを b 欄に、それぞれの要因分類の番号(1)～(15)を付して、具体的にご記入ください。

● 促進または阻害要因が無い場合には、(16) の欄に「＊」を記してください。

事業の促進・阻害要因の自己分析					
	促進	阻害	要因分類	a. 促進または阻害要因の具体的な内容	b. 対応、今後この分析結果をどう活かすか。
内部要因			(1) 経費		
			(2) 実施体制 (人員、関係機関 の協力等の確保)		
			(3) 資材調達 (事業実施に必要な 物資等の確保)		
			(4) 実施期間 (事業終了までに 要する期間)		
			(5) 事業運営のノウ ハウ(進捗管理、 資金管理等)		
			(6) 設計仕様の変 更(主に建築)		
			(7) その他		
外部要因			(8) 受益者の 規模・ニーズ		
			(9) 実施体制以外 の団体等の協 力・支援		
			(10) 関連法制度 の変更		
			(11) 利害関係者 (受益者以外)の 要望への対応		
			(12) 災害の発生 (地震、洪水等)		
			(13) 同様の技術 開発		
			(14) 競合するサー ビス・事業の出現		
		(15) その他			
＊			(16) 特になし		